

W NewsLetter 66

1978年8月5日 大阪市あべの区旭町2-12-2 戦争抵抗者インター日本部 Tel. 06 647-4089

七尾火電反対 7・8集公記

しても雰囲気をもりあげるものだった。

七尾駅から炎天を歩いて20分足らず、田はずれの造成地といったあけっぴろげのところ、意外にも江派な七尾市民会館があった。定員千二百の劇場風ホールはもうほぼ一ぱい。ひろいロビーに人が雑沓していた。まずそのさまにびっくり。入口で記名もせず入場券ももらわず、そのままいなのにまたびっくり。

そのあと新谷のり子の歌。もうこの頃はホールの壁際に立つ人、通路に坐る人、うしろの出入口あたりをいつぱいの人で大満員。千六百人はいたが、廊下に入りきれぬ人が沢山いた。この新谷のうたは、約30分、ちよつと場ちがいの感じもした、が主催者は人あつめと現地の人へのサービスマトラクションのつもりだったのかともしれない。

x x x

定刻から一五分遅れだのだから幕はもう上つていて、へ北鉄青年部演劇同好会の構成部トクサの怒りトヘトクサは七尾現地の地名がはじまつていた。漁師やおつかあや巡査、壮健な男などに扮装した十数人がならんでしゃべる。やゝ声色通劇の怒号潮が、はじめ気になったが、だんだん引きこまれる。とくに現地の人たちが坐っている前の方の座席から、なんども拍手が起つた。要領よく七尾火電廃止と余の経過をついて、四・二のあの海上決戦、そして四・二七における弾圧逮捕に至るまで約三・四の分、なまじの経過報告にもまして効果的で、アジとしても、まずの反切りと

いよいよ大々二部の本番。幕があがると明るいうちから座らされて30数人がざうりとならぶ。中央に演壇。それにかけてある濃緑地に白で、れた七尾火電反対青年会議の旗がよく目立つ。左側にはハチマキ姿で日焼けした一男して現地関係。右側には背広、ワイシャツの東郷、支那美術関係者。

それから三時過ぎ、司会へあまり上手すぎて、スラスラ進行して、つかりのないうたが物足らぬほど、によつて三十人ばかりの人が登壇した。その印象にのつた部分はいくつか、ふたしかな記憶で紹介すると――
「あれから11年を経過した。」

「やっていますか！健康法？」、原爆ひとつですべてムダ！

ワリニエス、引渡をよみたい方は、宛名記入、如印手、貼付の封筒を、その都事務所に送り下さい。

「保嬰林伐、裁断止のため、もう50日も坐り込みをついて、一人でも支拂がほしい」へ、柏崎原発反対、
「私の町では、賛成した」ということは、あいつはイ
クラもらうたか、である。それを認めて、電力会社自体
「どもは地許に於いて、お金以外でできることがない
と云つてゐる。山へ遷美、火カ増設反対連合会」
「そこで、手をあさめず、町中電、政府の責任を追及し
ていく。七尾の町に、山口のものほど、なんにはげま
れ、山へ遷美、山口」

「4月の早朝、にげもかくれもしないわれわれを、
岡には七百人のダンナさん、海からは二千トンの海上
保安庁船、山へ七尾海戦裁判被告団長」
「北宿は三聖、新井の町会を二つに分け、祭さえて
きないようにした山へ三聖町会長」

「次の幹事会？に原案として原案で、ストをうつとい
うことを討議する。山へ石川県警事務局長」
「その他、メツセージへ、新井山、旧電灯料金支ぬ。豊前火
力、山川、高砂、浜橋など」の朗読。この朗読、被爆者
は、奥に要領のよい紹介と共に、メツセージをよせ、
着がきて、そこでよむように、真情のこもつたよみ方を
したのには、感心した。町会者？とともに、読者のこつ
た。メツセージでは、豊前火力の提原さん、ものが、
（或は、ぼくのセンナメンタリズムかもしれないが）よ
まれ、七尾、豊前とつなぐ連帯のおもしろい、あふれ

ていて、ぼくは、ほんとに斗つてゐるものはみん
このように思ひを通わせあうのだ、とふと涙がこ
ぼれそうになった。……

二つ三つ、気付いた問題を簡単に

① 入場料タダではなく、運動としても、300円位のも
のをとればよいと思つた。もつとも、県議が今下野組
に動員を要請してゐたということから、とりにつ
いて、このことがあつたのだらう。ならば、せめて会場内
で、短くても、やして、カンパを集めればよかつたのに、
それもなかつた。その反面、新谷のり子を叩く、う
たわせたり、（多分、費用の殆どをどく、（最悪）が丸
か、かえする、ということになる。もうそろそろこん
な人集めの数に、重負をおくことで、暫くはあざりに
することはやめねばなるまい、というより、これはむ
しろ、南平組織の弱さであり、陰謀であつて、決して強
化にも拡大にもならぬことを、自覚しなければと思つた。
② どういうことか、三里塚からくることになつて、
三里塚事務局長の姿がなかつた。代理も、メツセ
ージをよめなかつた。八海の三里塚、と全国に喧
伝された、4、5、南平については何度も語られたが、
三里塚について、は、八海、山、口の人、一言ふれたが、
全く口を閉じたように語られなかつた。このことは、
七尾、火、電、南平の今後を、予見するうえで、重大な意味
をもつものと云わねばならぬ。

直接行動
反原発運動にかける直接行動の展開
山、火、電、南平の思想、13、5、ガリ版、24頁、送料、300円

③ 会場入口で「七尾火災更力阻止の向う戦線を再構築しようー石川反戦青年会評・全学連北信越地方共闘会」のビラがまかれていた。その内容を一部抄出すると「……このような社会党・県評の指導性喪失の対極において「七尾ー三里塚を結ぶ闘い」を「斗う鬼」民衆に学べ」などといった「三里塚斗争の中の敗者を七尾に持込むこと」によって「斗いが前進する」かのようになぞする部令も一部中絶内で発生しているのです。……」これは②とも関連すると共に、七尾斗争における「日共」と共に、今後の共闘関係にでなくてはならないことを予想させるものでもある。この対策はともむずかしく、最悪の場合()となかれ主義では「現地の合解をまねく。」

④ 三月下旬に臨んだステッカーが現地で問題になっていた。その内容のとり上げ方が問題であることにおいて、それは「ぼくらの問題である」だけでなく、七尾斗争の組織と「曾の闘争」と思われた。そしてその意味に「闘争の意味」()、このことについては、問題が顕在化したのち、商業な時代に自ら批判として更解をのびたい。

七尾7・8集会は、ぼくにとつて「現地が弾圧をうけたこと」によつて、かえつて大きくもり上り、何れもという闘争心を漁師、住民を中心にまきおこしていることとをまざまざと感じ取れたこと、その人たちの平直な表現での決意の表明が、ことばからではなく全身からあふれでて、会場を圧していた。そのことだけで、大きな意味があつた。だが又、そのはげしい闘争の熱気が、例えばどうしても予想されるハル九月頃の「強制代執行」による「理直強行」に対して、果してどう対応するものとなるか。集会で殆どそのことが不問にされたまゝ、だつたことと関連して、前述のいくつかの問題は、ぼくの心裡に複雑なものをおもひをのこした一とも云える。

パンフ トウサの怒りー弾圧に抗してー

七尾火災更力阻止青年会議 第三〇回カンパ

この冊子は42強行着工更力阻止から4月の大弾圧、14名逮捕()の全員身還までの闘いを、被逮者、その家族の感情的な手記を中心にまとめたもの。斗争現地が、弾圧に「そう」闘志を掻き立てる上る状況がまざまざと伝つてくる。「カニに反対は自身の田舎を「一層強くする」ために、カニに賛成派をも容赦していく武装として、カニに協力運動との結合拡大をめざして、カニに全国の地域住民の仲間」と結びあつて……(後記)発行された。……()、定価はなし。斗争カンパとして一冊三〇〇円、ぜひ買つて。

使用済記念切手・国鉄切符のコレクションをしています。お手計にあるものを送つて下さるとありがたいです。()

原案一口ばなし ①

研究と宣伝

「こんど、美兵の一号炉がやつと動くようになつたんやて。ホンマに大丈夫かいナ」

「もう心配はいらんやろ。政府も安全研究費を花躍的にふやしてるとし、当初とはケタ違いに、安全に力を入れてるとはまちがいなし」

「ほんまかいな、いつも同じセリフやで」

「いや、この数字みただけでも判るやろ。6年度の政府予算安全研究費は4億いくら。4年度(2)の年美兵一号は事故をおこした。6億いくら。それ以後は毎々倍々にふえて、6年4億、7年38億、そして今年ば、なんと80数億円というふえ方や。」「

「エツ、80億……それできみ原案の安全PRのに使つてゐる広告費、一年間に一体ナンボやと思てゐる……三百億円やなやれとるんやで？」

(安全研究予算金額は密々談話室新聞に基く)

原案一口ばなし ②

ナゾナゾ

「こんなナゾナゾしてゐる？」

「原案とかけて、トイレットなしのマンションと解く」

「で、そのココロは……」

「みかけはよいが、死の灰でファンパン」

「つまりドラム缶に壺れ流した核燃料廃棄物、すてばがなくて、つんどくばかり……というわけ也」

事務所から

○ まずお願い。ウリニエースレター送送用にと送つてもらつてゐる入宛名記入・50円切手添付済の封筒切りの方が多くなつてきた。封筒が切れてもすぐ打切るわけにはいかぬので、こちらで封筒をかいておく(これはまあ当たり前だが)わけにして、一回発送毎20〜30人、多くて40人位封筒切れも重なる、郵便代がバカにならない。それに夏休み学生アルバイトにおされてか、ウリ事務所女性陣のアルバイト皆無。さらにナマズ、2号(16頁)3号(18頁)英文版印刷費(こちらで原稿タイプづくつ上、印刷費ウンとネギリても)約六万円の支出に四苦八苦。その発送費五万四千の支出見込なくやきもきというしまつ。連日出かける活動費、夜更さる六疊の事務所は、雑務と人の出入りと談笑と、差入れのスイカノなど、ああおいしナアとむらがりEべながらの、熱気ムンムンの金欠病。もう慢性Eから、バツにどうとうとほなののEが、入封筒切レの方ば、ぜひ入封筒を送り下さい。みんな明日の会合をえつて、今日、日曜、るり子はんは昨報から日曜へビラまき。ふうさんはフリークの女と反原案の話し合ひへ……

7/13/80 (考)